

勢多だより

SETA DAYORI

No. 109

2018年7月

平成30年度入学宣誓式

新任教員紹介

平成30年度新入生宿泊研修

第43回浜松医科大学との交流会

平成29年度卒業式

- ・生協からのお知らせ
- ・学生だより など



平成30年度
新入生歓迎



【メインテーマ】平成30年度 新入生歓迎

トピックス

01 平成30年度 入学宣誓式

新任教員紹介

05 臨床看護学講座（母性・助産）

教授 喜多 伸 幸

06 整形外科科学講座

准教授 森 幹 士

キャンパスライフ

07 平成30年度 新入生宿泊研修

10 第43回 浜松医科大学との交流会

12 学生だより ～先輩に学ぶ勉強法～

14 第41回 解剖体納骨慰霊法要・納骨式

生協からのお知らせ

15 滋賀医大生協は創立15周年です

図書館からのお知らせ

16 本学教職員が薦めるこの本 2018

JCHO 滋賀病院だより

20 JCHO 滋賀病院 健康管理センターの紹介

インフォメーション

22 平成29年度 卒業式

25 平成29年度 大学院 学位授与式

26 平成29年度 各賞授与式

27 医師・保健師・助産師・看護師 国家試験の結果

28 研究医コースのご案内

トピックス

Topics

平成30年度 入学宣誓式



学長 塩田 浩平

告辞

ここ瀬田のキャンパスでは、フレッシュな皆さんを歓迎するように桜が咲き誇っています。本日ここに、ご来賓各位のご臨席を賜り、平成30年度滋賀医科大学学部および大学院の入学宣誓式を挙げていただけますことは、本学にとって大きな喜びであります。

滋賀医科大学に入学された医学科100名、看護学科63名の皆さん、おめでとうございます。滋賀医科大学を代表して皆さんを心から歓迎し、お慶びを申し上げます。また、これまで学生の皆さんを支えてこられましたご家族ならびにご関係の皆様にもお祝いを申し上げます。

新入生の皆さんは、医師や看護師として医療の第一線で活躍することを志し、あるいは医学・看護学の研究者になることを目指して、厳しい受験勉強を経て本学に入学されました。いま皆さんが感じている喜びと決意を忘れることなく、これからの4年間または6年間勉学に励み、有意義で充実した学生生活をこの滋賀医科大学で送ってください。

また、大学院博士課程へ進学された32名、修士課程へ進学された8名の皆さん、ご進学おめでとうございます。皆さんは、一定期間医療の現場などで経験を積まれた後、研究を志して大学院課程に進まれました。これからそれぞれの領域で研究を進められるわけですが、研究者としての素養を積み、医学・看護学の重要な課題に取り組んで、独創的な研究成果を挙げてください。

滋賀医科大学は、わが国の医学部の中では若い方の大学ですが、医科大学という特色を活かし、新しい医学教育・看護学教育によって信頼される医療人を育成し、特色ある研究によって医学・看護学と医療の発展に貢献しています。また、滋賀県で唯一の医学部であり、地域医療の場で活躍する卒業生が増えています。滋賀医科大学は「地域に支えられ、地域に貢献し、世界に羽ばたく」大学として発展してきましたが、本日お迎えした皆さんが若い活力として、我々と共に本学

のさらなる発展のために力を発揮していただくことを期待しています。

滋賀医科大学は、これまでも医学教育と看護学教育に力を注いできましたが、世界に通用するグローバルスタンダードの医学教育・看護学教育を目指して教育改革を進めています。医学科は昨年11月に「医学教育分野別評価」の審査を受けました。これは、本学の医学教育の理念、内容、体制、教育の成果など全般にわたって外部評価委員による詳細な審査を受け、国際基準に適合した医学教育を実施しているかの評価を受けるものです。幸い本学はこの審査に合格しましたので、本学の医学科卒業生は国際基準を満たした医学教育を受けたと認められ、米国などの医師資格試験を受験する資格が与えられます。しかし、これからの6年間に学ぶべき内容は大変多く、臨床実習の期間も現在の上級生よりも8週間以上長くなります。また、看護学科でも数年以内にコアカリキュラムに準拠した新カリキュラムに移行すべく、現在作業を進めています。医学部での勉強は大変ハードで、専門科目全てに合格しなければ卒業することができません。心身の健康を保ち、皆さん全員が無事に学業を全うされるよう願っています。

皆さんが卒業して臨床の現場で働くとき、十分な専門知識と技能を身につけていなければならないのは当然ですが、皆さんが大学で学ぶのは、囲碁や将棋で言えば「定石」であります。まず定石を覚えておくことは不可欠ですが、実戦に当たる実際の臨床では、病気の表れ方や患者さんの反応は千差万別であり、教科書的な知識だけでは対応できないことが頻繁に起こります。そうした時に必要なのは、確固たる基礎知識と、難しい局面に臨機応変に対応できる応用力です。いま、藤井聡太君や井山裕太さんらの活躍によって将棋や囲碁の面白さ、奥深さが注目されていますが、精神科医の故中井久夫先生（元神戸大学教授）は「治療というのは科学よりも将棋や碁や戦略に似ている」と言っておられます（「医学部というところ」より）。皆さんがこれまで勉強してきた高校までの勉強は、必ず正解のある問題を確立された方法を用いて解くことでし

た。しかし、医療を含め、実際の社会では「何が正解かわからない」あるいは「考えてもわからない」問題や「正解がない」問題の方が圧倒的に多いのです。臨床の場で困難に直面したときに自らを支えるのは、たゆまぬ学習に裏付けられた自信であります。そのためにも、ぜひ悔いのない大学生活を送ってください。

一方で、大学時代には友人を作り、様々な体験をすることも重要です。本学ではクラブやサークルなどの課外活動が盛んですので、学業の合間の余暇を見つけて、課外活動や自らの趣味などを楽しみ、多くの友人を作ってください。そこで体験するチームワークの重要性は、医療の現場でも必ず役に立ちます。

医療の仕事は厳しく、医療従事者は日夜大きなストレスに曝されるため、中には心身に不調を来したり、仕事で「燃え尽きる」人もあります。これに関連して、今年1月、米国の研究グループが一つの論文を発表しました。Thomas Jefferson医科大学、Tulane大学などの研究者が、約740名の医学生を対象に調査を行い、他者への共感力や自分自身に対する信頼感、忍耐力などと人文学（humanities）の素養との関係を分析しました。それによると、文学や芸術（絵画・音楽）といった人文学に親しむ習慣が多い学生ほど、他者に対する思いやりに優れ、忍耐強さ、自分自身への信頼感などポジティブな傾向が強く、また肉体と精神の疲労や過酷な仕事に対する耐性が優れているという結果が得られました（Mangioneら、J Gen Intern Med 2018 Jan 29, Epub ahead of print）。この結果から彼らは、人文学の素養が人間性を高め、医師となる上でプラスに働くのだと結論しています。本学では、1年目の基礎学課程で人文科学、社会科学、自然科学、語学などを教育しますが、私生活においても若いうちから文学や芸術に親しむ習慣を身につけ、これからの長い人生を豊かに送るように心がけてください。

さて、本日、大学院では、博士課程と修士課程へ併せて40名の皆さんを迎えました。この中には9名の外国からの留学生もおられます。

滋賀医科大学では、アルツハイマー病を中心とした神経難病研究、サルを用いた医学生物学的研究、癌治療研究などを重点研究として推進すると共に、各研究者の発想に基づく独自の研究を推進しています。また、アジア疫学研究センターを中心として進めている大学院リーディングプログラム「アジア非感染性疾患（NCD）超克プロジェクト」では、生活習慣病などの非感染性疾患を中心とした疫学研究を推進するとともに、研究・教育・政策立案などの現場でリーダーシップを発揮して活躍できるグローバル人材を育成することを目的とした大学院教育を行っています。

研究者を目指す者が大学院時代に身につけるべき事柄がいくつかあります。まず、自らの頭で考える研究者になるということです。最初は指導者の助言によって研究を始めるとは思いますが、研究の真のモチベーションとなるのは、自分が解明したいと思う課題や疑問を見つけ、その解決に取り組むことです。世界の研究の動向を学び、自ら深く考えることによって、自分がおもしろいと思う研究テーマを見つけ、それに勇気を持って挑戦してください。

第2は、自ら手を動かし、人一倍働くことを厭わないことです。研究は各人の興味に基づいて行うものですが、世界中の科学者がしのぎを削って競争しています。そうした競争をポジティブに捉え、ライバルとの戦いを楽しんでください。ここでは、考えるだけではなくハードワークがものを言うことが少なくありません。

また、研究は常に順調に進むとは限りません。苦しいときに忍耐し、トンネルを抜けたときに新しい視野が開ける感動を感じることができるのも、研究生活の醍醐味であります。

第3は、研究室の同僚や国内外の研究者との交流、ネットワークを大切にしていきたいということです。昔の研究者は実験室に閉じこもってひっそりと研究する、ということが珍しくありませんでしたが、今日の高度な科学研究は一人や小さい研究グループだけでは完結しないものが多くなっています。共同研究によって研究が深まり大きく発展することが少なくありません。オープンサイエンス、オープンイノベーションが重要視される理由は、こうしたところにあります。皆さんは、研究室や学会での活動を通じて、できるだけ他機関や外国の優れた研究者と知り合い、研究者ネットワークを活用して研究を発展させるという習慣をぜひ身につけてください。

最近メディアでも報道されているように、国際社会におけるわが国の科学界の地位が年々低下しています。発表される論文数や、世界のトップジャーナルに掲載される論文数が、先進国の中で日本だけが減少しています。その原因としては、国の科学技術政策のあり方や大学の改革の遅れなどが指摘されていますが、我々は何とかこの退潮傾向を食い止めたいと苦心しています。次の時代を担う若い研究者の皆さんが意欲的な研究に取り組み、インパクトのある優れた研究成果を挙げていただくことを心から期待しています。

本日、滋賀医科大学へ入学された皆さんの大学生活、大学院生活が楽しく充実したものになることを心から祈念し、お祝いの言葉といたします。

平成30年度 医学部 入学宣誓式

日時：平成30年4月3日（火）

場所：滋賀医科大学 体育館

医学科新入生 100名



看護学科新入生 63名



平成30年度 大学院 入学宣誓式

日時：平成30年4月3日（火）

場所：滋賀医科大学 体育館

博士課程 32名、修士課程 8名



新任教員紹介

New
teacher
introduction

臨床看護学講座（母性・助産）



教授 喜多 伸幸

平成29年5月17日、滋賀医科大学長、副学長をはじめ、私の恩師でもある産科学婦人科学講座 村上節教授、滋賀医科大学医学部看護学科臨床看護学講座（母性・助産） 立岡弓子教授等多くの先生方のご高配を賜り、本職階を拝命し再び母校に帰学致しました。本来なら早々のご挨拶をするべきところ、勢多だよりへの寄稿が就任約1年遅れとなったことにつきましては、この場をお借りいたしまして心より深くお詫び申し上げます。

さて、私は本学医学科7期生であり、昭和62年の卒業生であります。当時はスーパーローテーション制度などなかったため、卒業と同時に初代教授・故吉田吉信先生が主催される産科学婦人科学講座に入局し、同講座で初期研修を行いました。その後関連病院に於いて産科婦人科一般診療に従事し、2代目教授・野田洋一先生のもとで学位を取得した後、再度、滋賀医科大学に帰学致しました。病棟医長、外来医長、医局長を歴任後、3代目教授・村上節先生の元でも仕事をすることの恵まれ、産科学婦人科学講座の同門会史上、唯一3代の教授にお仕えする稀有な存在となりました。この間、私は周産期医療に専従し、とりわけ産科危機的出血に対応・処置に従事しておりました。そのため集学的医療を必要とする患者・妊婦あるいは褥婦が多く、滋賀医科大学附属病院集中治療部の先生方には昼夜を問わずお世話になったことを今でも昨日のこのように思い出されます。産科出血は非常に短時間で生じることが特徴で、容易にDICに陥ります。そのため初期治療がきわめて重要で、本学だからこそ救命出来た症例が多数存在します。現在は中堅医師がDIC

治療のノウハウを全て理解・習得し、誇らしい限りであります。

平成27年5月31日、10年余にわたり在籍した産科学婦人科学講座の職を辞し、済生会滋賀県病院に約2年間勤務した後の帰学であります。私の身体に思いも寄らない異変が立ちはだかることとなりました。頸椎症性脊髄症の発症であります。日本整形外科学会のHPの一般の方向けの解説では、以下のように記載されています。

「ボタンのはめ外し、お箸の使用、字を書くことなどが不器用になったり、歩行で脚がもつれるような感じや階段で手すりをもつようになったりという症状が出ます。手足のしびれも出てきます。（中略）転倒など軽微な外傷で四肢麻痺（脊髄損傷）になる可能性が存在しますので、転倒しないように注意します。一般的に日常生活に支障があるような手指巧緻運動障害がみられたり、階段昇降時に手すりが必要となれば、手術的治療が選択されます。」

上記の症状がほとんど合致したため、手術療法を選択、頸椎前方除圧固定術を受け、その後数カ月間のリハビリ生活を余儀なくされました。幸いながら症状の進行は現在のところ認められず、手指の痺れも軽快しました。本当に助かりました。

現在は自分の娘のような世代の助産学生に対し講義を担当しています。わたしもこの領域ではまだまだ初心者であり、多くの皆様方のご指導ご鞭撻を賜り本職責を果たして行きたいと考えております。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

経歴

昭和62年 3月 滋賀医科大学医学部医学科 卒業
 昭和62年 4月 滋賀医科大学医学部附属病院産婦人科 臨床見学生
 昭和62年 6月 同 研修医
 平成元年 6月 同 医員
 平成3年 4月 総合病院健康保険滋賀病院産婦人科 医員
 平成5年 10月 野村産婦人科 副院長
 平成7年 8月 滋賀医科大学産婦人科 助手
 平成10年 2月 社会保険滋賀病院産婦人科 医長
 平成14年 4月 同 部長

平成14年 11月 滋賀医科大学産科学婦人科学講座 助手
 平成18年 6月 同 講師
 平成18年 10月 滋賀医科大学医学部附属病院母子診療科 講師
 平成22年 2月 滋賀医科大学産科学婦人科学講座 准教授
 平成27年 7月 済生会滋賀県病院産科・婦人科 主任部長
 平成29年 5月 滋賀医科大学医学部看護学科臨床看護学講座（母性・助産）教授

整形外科科学講座



准教授 森 幹士

2018年2月より整形外科の准教授を拝命致しました森 幹士（もり かんじ）です。この場をお借りして、ご挨拶申し上げます。

私は、1995年（平成7年）に滋賀医科大学医学部を卒業した15期生です。大学卒業後は整形外科に入局し、滋賀医科大学附属病院にて初期研修を開始しました。

1997年（平成9年）より大学院に進学し、当時の整形外科教室の研究のひとつのトレンドであった遺伝子多型を用いた研究に興味を持ち、脊椎関節炎の代表疾患である強直性脊椎炎の感受性遺伝子に関する研究を行い、学位を取得致しました。大学院卒業後も、臨床とともに研究も継続する日々を送らせて頂きました。整形外科は守備範囲が広く、それぞれの分野の専門性が高い診療科ですが、私は脊椎外科を専攻させて頂きました。

1999年（平成11年）には、滋賀医大と姉妹校提携しているピカルディー・ジュール・ヴェルヌ大学（通称アミアン大学、フランス）に留学させて頂きました。帰国後、関連病院で整形外科医としての研鑽を積み、平成16年からはナント大学（フランス）への留学の機会を与えて頂きました。骨代謝や骨腫瘍に関する基礎研究に励む傍ら、週1回の手術室での脊椎外科臨床研修の機会も与えて頂きました。ナント滞在の最後の1年間はナント大学整形外科の外国人客員教授を拝命することができ、結局3年半のフランスでの生活となりました。海外での生活は、公私ともに学ぶことが多く、私の人生の貴重な1ページとなりました。もし、留学

を検討されている方がいらっしゃるなら、是非とも前向きに検討されることをお勧めいたします。

2007年に帰国し、滋賀医科大学附属病院にて日本での勤務を再開させて頂きました。現在は脊椎外科のチーフとして頑張っています。脊椎疾患は、神経内科疾患との鑑別など一筋縄ではいかない症例も少なからず存在します。また、脊椎の解剖学的な特徴や脊髄損傷の外科的治療は困難という現在の医療の限界から合併症の比較的多い分野でもあります。しかし、手術の適応やタイミングを誤らなければ、ドラマティックにドラステックな改善を見せてくれるのも脊椎外科であります。

数ある脊椎疾患の中に、厚生労働省の指定難病である脊柱靭帯骨化症（後縦靭帯骨化症および黄色靭帯骨化症）があります。大学院を卒業するころから厚労省研究班に参加し、この疾患の病態解明や治療成績向上のための研究に従事しています。殆どの都道府県には脊柱靭帯骨化症の患者会が存在し、年に2回開催される班会議には患者会の方々も参加されますが、近畿地方では滋賀県のみ患者会が存在しない状態が続いていました。滋賀県難病連の方々や有志の方々と協力し、2018年に患者会設立に尽力しました。

まだまだ未熟ですが、脊椎外科医として後進の指導と地域医療に貢献して参りたいと考えております。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、よろしく願い申し上げます。

経歴

平成7年3月 滋賀医科大学医学部医学科卒業
 平成7年6月 滋賀医科大学医学部附属病院整形外科・研修医
 平成8年7月 蘇生会総合病院整形外科・医員
 平成9年4月 滋賀医科大学大学院医学研究科博士課程入学
 平成9年7月 宮脇病院整形外科・医員
 平成10年7月 滋賀医科大学医学部附属病院整形外科・医員
 平成11年4月 アミアン大学(フランス)にて留学・研究
 平成12年7月 医療法人竜王会 小澤病院整形外科・医長
 平成13年3月 滋賀医科大学大学院医学研究科博士課程修了

平成14年7月 医療法人社団昂会 日野記念病院整形外科・医長
 平成16年3月 ナント大学(フランス)にて留学・研究
 平成18年9月 ナント大学(フランス)整形外科・客員教授
 平成19年9月 滋賀医科大学医学部附属病院整形外科・医員
 平成19年11月 滋賀医科大学医学部医学科整形外科学講座・助教
 平成24年7月 滋賀医科大学医学部附属病院整形外科・講師
 平成30年2月 滋賀医科大学医学部医学科整形外科学講座・准教授

キャンパス
ライフ
Campus
life

平成30年度 新入生宿泊研修

4月5、6日の両日、休暇村近江八幡において、平成30年度新入生宿泊研修を実施しました。研修には、医学科、看護学科の新入生および引率教職員の総勢約180名が参加しました。

初日は、飯ごう炊さんから始まり、「滋賀と滋賀医大の魅力」「里親学生支援について」「湖医会（同窓会）の支援事業：卒後の日々について」の講演や、学科・クラス別懇談会が行われました。

2日目は、「薬害とアルコールについて」の講演が行われた他、少年犯罪被害当事者の会の一井彩子氏より「命の大切さ」についてご講演いただきました。その後、大学に戻り、病理学講座（分子診断病理学）向所准教授による「滋賀医科大学入学に際しての心構え」と題したワークショップが実施されました。

● 新入生宿泊研修に参加して

医学科第1学年 富田 征良

滋賀医科大学に入学してまだ新しい環境に慣れないままはじまった宿泊研修。不安と緊張が入り交じった気持ちの中、まず、各班10人ずつくらいに分かれ、飯ごう炊さんがはじまった。各々の自己紹介からはじまり、私も含め皆緊張している様子だった。しかし、野菜を切る、火をおこす、など様々な役割を分担しながら協力していくうちに、自然と緊張はほぐれ、カレーが出来上がる時にはすっかり皆うちとけていた。

その後様々な分野の講義をうけ、自身が滋賀県出身であるのに知らなかったことを学んだり、犯罪被害にあった遺族の気持ちを改めて考えたりすることができた。また宿泊研修の最後に行われたグループワークでは自身がどのような医療人になりたいかということや、大学入学後すぐに意識させられ、またそのような医療人になるために、今どのようなことが必要なのかを深く考えることができたので大変良かったと思う。

この二日間ですごいことを今後の大学生活で活かし、有意義な大学生活を送りたいと思う。



医学科第1学年 三上 紗季

入学式、健康診断、新歓、ガイダンスと大学生活に圧倒されている中、始まった宿泊研修。朝早く学校に集合し、その時たまたま近くにいた人とバスに乗り、景色を見ているとあっという間に休暇村に到着しました。飯ごう炊さんの班は、名簿の離れた人と一緒になるように組まれていたため、話したことのない人ばかりでした。年齢もばらばらなメンバーで飯ごう炊さんすることに初めは不安だらけでしたが、小学校・中学校で行うのとは違い、皆が楽しみながらも自分の仕事を見つけ、スムーズにカレーとご飯を作ることができました。私の班は他より早く食べ終わったので、他班の洗い物を手伝ったりしましたが、全体的に遅れ気味で、次の集合に間に合った班は1班のみで、最後の班は30分近く遅れていたことが残念でした。

その後、滋賀の魅力や研修医の先生の話聞き、クラスで集まり、またグループを組んでいろいろな話をしました。夜は飯ごう炊さんとはまた違うメンバーで同じ部屋に泊まりました。1日目は今まで話していな

い人とたくさん話す機会があってよかったです。夜も自由時間が長かったお陰で、だいぶお互いのことを知ることができました。2日目は少年犯罪の被害者のお母様からのお話など、身になる話が聞け、これからの大学生活を頑張っていかなければいけないと痛感しました。学校に戻ってからのお話は、グループワークだったため飯ごう炊さんのメンバーに再会したりして楽しかったのですが、それだけではなく、これから医療従事者になるために大学生のうちにしなければならぬことの見通しが立ってよかったです。

これから6年間一緒に過ごす仲間との絆のようなものが生まれ、また合格によって緩んでしまった気持ちがだいぶ引き締まるきっかけになった2日間でした。今回聞いた話を心に刻んで勉学に励もうと思います。



看護学科第1学年 嶋村 空良

入学して間もなく行われた宿泊研修。研修の予定表に書かれていたバスの車割りを読んで集合場所に向かうと、話したことのない人たちが並んでいてとても緊張したのを覚えています。そんな中なんとか隣に座っていた人と打ち解けて、休暇村に着くまで話していました。着いてから飯ごう炊さんの班に分けられたのですが、そこでもまた新しい顔ぶれが並んでいて不安な気持ちになりました。しかし、予想とは裏腹に気さくな方がたくさんいて、カレーライスが出来る頃にはすっかり仲良しになっていました。

その後は、滋賀の魅力、タバコ・飲酒・薬害の害、研修医の方々からのアドバイスなど、様々な講義を受けました。その中で私が心に残っているのは、初日の犯罪者遺族の方の講義です。講義の中で被害者がどのようにして亡くなられたかを説明される部分があったのですが、あまりの酷さに息が詰まるような思いがしました。そこで、改めて命の大切さ、尊さを再認識しました。

今回の研修では、前述したバスや飯ごう炊さん以外にもありとあらゆるところでグループ分けがありました。当然緊張はしたのですが、その都度新しい出会いがあり、この研修のおかげで大学での横のつながりが格段と広がりました。この素敵な出会いを通して、充実した四年間を過ごせるよう努めたいと思います。



看護学科第1学年 中村 文音

入学式が終わって2日、新生活への期待と不安を持ちながら宿泊研修を迎えました。バスに1時間半ほど乗り、到着した休暇村は、桜がまだ綺麗に咲いており、横には琵琶湖もある、たくさんの自然に囲まれた場所でした。

到着後すぐに飯ごう炊さんが行われました。医学科とも合同のグループで初めは緊張していましたが、共に作業をすることですぐに打ち解けることが出来ました。なかなか火がつかなかったりということもありましたが、先生方も手伝ってくださり、協力してなんとかしようとするのでさらに親睦を深めることが出来ました。

2日間の中で様々な講義を受け、滋賀医大の学生になるんだなという実感をさらに強く持つことができ、充実した研修になりました。特に医療人としてのマナーについての講義とグループでのディスカッションでは、医療人を目指すならば生半可な気持ちではいけないと感じ、気持ちが引き締められました。

飯ごう炊さんの際、こけて捻挫をしてしまい、2日間松葉杖で過ごすことになるというハプニングが起きてしまったのですが、教授の先生方、学生課の方、友達など、たくさんの人たちの優しさに触れることができ、この大学に入ってよかったなど改めて実感することが出来ました。この2日間の研修で学んだことを忘れず、これから4年間、多くの経験をし、充実した大学生活を送り、社会に貢献できる医療人になりたいと思います。



看護学科第3年次編入 森 由希子

入学式が終わり、まだほとんどの方の名前と顔が一致しない不安な中で、宿泊研修が行われました。行きのバスでは、隣の席に座った子と、大学に入るきっかけやお互いの家族について話すうちに緊張もほぐれ、不安が楽しみに変わっていきました。例年より暖かい日が続く、休暇村では満開のさくらに迎えられました。他県出身の私は、緑の中に水面が開け、その先に山が見えるという琵琶湖や滋賀県の美しさに感動し、心躍らされました。

休暇村では、さまざまなプログラムや講義が行われました。中でも、各先生方が様々な視点から滋賀県の魅力について語られていたことが印象的で、この地域や、地域で働くことに魅力を感じさせられました。

帰学し、医学部・看護学部合同の講義では理想の医療人になるためには、どのようなことを大学ですべきかについてディスカッション・プレゼンテーションを行いました。この中では、一緒に入学した仲間たちの高い志を聞く中で、改めて学習への意欲が高まりました。

た。2年間という短い時間ですが、無駄にすることなく、主体的に学び、医療人としての糧になるようにしたいと思います。



第43回 浜松医科大学との交流会



第43回浜松医科大学・滋賀医科大学交流会が、今年度は浜松医科大学を会場として5月11日(金)および12日(土)に実施されました。本交流会は、学生・大学間の交流を深めることを目的に、例年相互の大学を会場に実施しています。

交流会参加者は両校で約700余名となり、特別講義室で開会式が行われた後、各競技において熱戦が繰り広げられました。対戦成績は15戦4勝11敗で浜松医科大学の総合優勝となり、6年ぶりに優勝杯を譲る結果となりました。

この結果、通算で本学の22勝15敗6引き分けとなり、来年の本学での再会を約束し交流会は終了しました。

競技結果

平成30年5月11日(金)・12日(土)

種目		滋賀	浜松
硬式庭球	男	×	0-8 ○
	女	×	1-3 ○
準硬式野球		×	1-3 ○
バスケットボール	男	×	43-47 ○
	女	○	61-29 ×
バレーボール	男	×	0-2 ○
	女	○	1(セット数)46(総得点) - 1(セット数)41(総得点) ×
バドミントン	男	×	2-3 ○
	女	○	5-0 ×
サッカー		×	1-3 ○

※バレーボール女子は2セットの得失点差で浜松医科大学の勝利

種目		滋賀	浜松
ヨット		○	×
ボート		×	○
ハンドボール		×	24-30 ○
ゴルフ		×	○
空手道		試合不実施	
水泳	男	△	△
	女	△	△
剣道		×	1-4 ○
卓球		試合不実施	
総合結果			
滋賀医科大学		4対11	浜松医科大学

※ 通算 (滋賀医科大学) 22勝 15敗 6引き分け



● 浜松医科大学との交流会に参加して

体育会長 柴田 駿介

長く続いている浜松医科大学との交流会も今年で第43回となりました。今回の交流会を行うにあたり両校の先生方や職員の方々、浜松医科大学の体育会長をはじめとする浜松医科大学体育会幹部の方々、そして滋賀医科大学の体育会交流会担当である住友さんに変ご尽力いただきました。ご協力していただいた皆さんにこの場を借りて感謝を申し上げます。ありがとうございました。

今年も両大学の多くの学生が交流会に参加し、非常に活気あるものになりました。天候面でも2日ともスポーツをするには絶好の天候となり、選手たちは日頃の練習の成果を十二分に発揮してくれていたように思います。

私自身、浜松医科大学の選手と交流は毎年行っていますが、交流会に参加するのは初めてでした。壮行会や開会式、閉会式、レセプションなどが行われていることは知っていましたが、実際に参加したことがなく、どういったものなのか全く知りませんでした。今回、

滋賀医科大学の学生を代表する体育会長として参加し、実際の活気ある雰囲気に触れ、熱気あふれる交流戦や両大学の学生が楽しく交流を行なっている様子を目にして、伝統ある交流会の素晴らしさを感じ取ることができました。

競技面では、本交流戦は西医体に向けて残り3ヶ月であるという時期的に、多くの部活がラストスパートをかける上での手応えや課題を見つける絶好の機会であったと思います。この機会を活かして、両大学の各クラブが西医体で最高の結果を残せるように、日々の部活動を頑張ってもらいたいです。交流戦全体の結果としては数年ぶりに敗北してしまいましたが、各選手が個人個人で全力を尽くし良い経験を得られたと思うので、実り多き交流会だったように思います。

多くの学生とふれあい、交流の輪を広げることができ、両大学に多くのものをもたらしてくれる本交流会が、来年以降も活気ある素晴らしい交流会として開催されることを期待しております。

浜医交流会担当委員 住友 志帆

まず、今回の浜松医科大学との交流会を開催するにあたりご尽力いただきました先生方、職員の方々、体育会長の柴田くん、また今回の交流会は浜松医科大学での開催ということで浜松医科大学の先生方、職員の方々、体育会長、関係者の皆様にご尽力していただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

私自身としては4度目の交流会となりましたが、浜松医科大学の間には毎年刺激を貰うと同時に年々親交も深まっていると感じています。この交流会は西医体・西コメディカルに向けてさらにモチベーションをあげると同時に学校をあげて他大学と交流することにより、多くの学生と知り合う良い経験になっていると思います。

今回の交流会委員の仕事を通じて、事前準備など様々な面で皆様に助けていただきました。大きな交流会を開催する経験は初めてで、全員に満足してもらうためにはどうしたらよいか考え行動することの難しさ

を実感しました。しかし、各部活楽しんでいる様子を見てこの仕事に携われて良かったと思いました。学生同士の協力でこのような大きな交流会を開催することができ嬉しく感じました。このように一人一人が協力し合うことで大きな成果を得られたという経験はこれから先の人生において良き自信となり、生きてくるのではないかと思います。

2日間大きな事故やトラブルもなく、無事に交流会を終えることができ、ご協力して下さった関係者の皆様に改めて御礼を申し上げると同時に、また来年以降も素晴らしい交流会が開催できるように後輩の皆さんには頑張っただけだからと思います。



学生だより

～先輩に学ぶ勉強法～



本号から学生による学生のためのページを設けました。

今回は新入生歓迎企画として、今年4月にご入学された皆様に向けた温かいメッセージとともに「先輩に学ぶ勉強法」と題して在学生2名の方に各自の勉強法を聞いてみました。

日頃の勉強・試験勉強に、そして今後の国試対策にぜひとも参考にしてみてください！

医学科第2学年 平尾 洋太郎



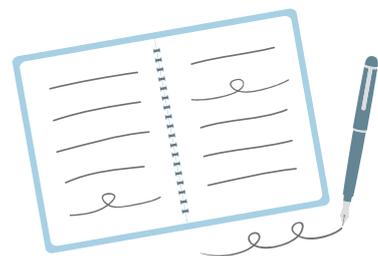
新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。皆様におかれましては、受験期という地獄のような日々から一転、大学生として充実した毎日を謳歌していらっしゃるかと思います。そのような多忙な毎日の中で、頭の中から何か重要な要素が抜け落ちていくような…そう、勉強です！ つい2、3ヶ月前まであれだけ打ち込んでいた勉強を一瞬でなくなるのが大学生ってもんです。僕は去年、それを身をもって痛感しました。しかし、後から考えれば1年生すべき勉強量は受験期とは比べ物にならないくらい少量です。つまり、要領よくやればそこまでしんどい思いをしなくてもいいのではないかと思います。この要領こそが、大学生には必須のスキルではないかと考えます。

大学生と高校生との大きな違いの1つが出席の有無です。高校では出席して当たり前みたいなところがありますが、大学では必ずしも全ての授業に出席が義務付けられるわけではありません。よく言えば自由ですが、一方で自己責任という言葉が重くのしかかります。とりあえず、出られる授業にはちゃんと出席するということはとても重要なのではと思います。やむを得ない理由なら仕方ないですが、単にダルいとか面倒くさいとかいう理由で休むというのはいささかもったいない気がします。授業中にその内容をマスターする気持ちで90分間だけ集中すれば、要領よく勉強できるはずです。そして、試験前にはある程度の時間を確保して十分に対策をするという、いままでの人生で散々やってきた作業を抜き取りに行えば大丈夫です。「ゆーていけるやる～」というノリはたまに大惨事を招きます。

もう1つ違いをあげるならば、試験期間中の部活の有無でしょう。大学では試験があろうとなかろうと、ほとんどの部活が決められた曜日・時間に練習や試合を行います。試験前日に試合なんてこともあります。そんな時に一夜漬けで勉強しようとしても結果は目に見えています。ですので、ここでも要領が物を言います。部活の予定はおよそ1ヶ月前には分かっているはずですので、そこから逆算して勉強していくといいと思います。大学では自由にバイトや部活をしたりできますが、制約がないぶん自己責任でそれらに取り組みねばなりません。悲しいことに、「部活が忙しいから試験に落ちた」は通用しません…。そういったことを考えてみると、少しは前々から勉強しといたほうがいいのかと思いませんか？笑

「そんな偉そうなことゆーといてお前はできとったんか」と言われるとお恥ずかしながら僕自身できていないことの方が多かったです。こうしといたらラクだったのになーと思うことを書かせていただいた次第です。どうか、参考程度に読んでいただければ幸いです。

最後になりましたが、生物選択者は必死こいて物理やってください。応援しています。



看護学科第3学年 濱場 佳瑛



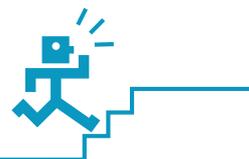
「勉強の仕方」とか、正直今までもずっと勉強してきたて分かりきっていることだと思います。私もそうだと思っていました。ただ、大学に入ってまで部活をするとは思っておらず、バイトや遊びなどで自分の時間がこんなにも取られてしまうとは、思ってもいませんでした。

私は大学に入学した時、勉強はテスト前だけ頑張ればいいやと思っていました。高校の時テスト対策を始めるのはいつもテスト2週間前で、大学でもその程度やれば大丈夫だと高を括っていました。1年生前期、いざ2週間前になると、勉強をしようとは思うけど高校の時みたいに部活が休みになるわけではなく、バイトも休めるわけではなく、さらには、授業中わからないことがあってもテスト前にやればいいや、と思っていたため理解するまでに時間がかかり、なんやかんやで時間が過ぎ、直前に詰め込むだけになってしまいました。その結果、テストの結果は全然ダメで、楽しみにしていた夏休みが減ってしまいました…。

その反省を生かし、1年生の後期からは、その日のうちに分からないことは消化し、テスト1ヶ月前から授業のレジュメを見返し、まとめ、テストに備えるようにしました。一人で勉強をしていると心が折れそうになるけど、大学には友達がいる、一緒に勉強することでお互いを高めあうことができました。そのおかげで、テスト直前に焦ることもなくなり、再試にもかからず、充実した春休みを送ることができました。

私が自分の経験を通して、皆さんに言いたいことは、分からないことはすぐに消化すること、余裕をもって勉強すること、高めあえる友達と一緒に勉強すること、それが大学生活にはすごく大事になってくるということです。今まで当たり前のようにできていたとしても、大学生になると環境は変わります。最初だから失敗をしてもいいや、ではなく、この文章を読んで、少しでも頑張ってもらえればいいなと思います。新入生の皆さんが良いスタートダッシュを切れることを願っています。

図書館でも勉強してみませんか？



図書館には学習用のスペースとして「室」と名の付くエリアが4つと閲覧席のあるエリアが各階にあります。エリアによっては24時間空調を使用できます。他の利用者の迷惑にならないようマナーに注意してご利用ください。

西側閲覧室は一番席の多いエリアです。パソコン(タブレット含む)の利用が可能です。



アクティブラーニング室はプレゼン・ディスカッションの練習やグループでの勉強会などがOKのエリアです。可動式の机・椅子、ホワイトボードを設置しているほか、貸出用にパソコン、プロジェクタを用意してます！

第41回 解剖体納骨慰霊法要・納骨式

6月2日（土）午前10時30分から、比叡山延暦寺阿弥陀堂において、ご遺族、ご来賓、しゃくなげ协会会员および学生、教職員総勢約430名が参列し、第41回解剖体納骨慰霊法要・納骨式が執り行われました。

法要の中で、塩田学長から今回お祀りした44柱の御霊及びご遺族に対し、慰霊と感謝の意を述べるとともに、「学生は解剖学実習を通じて、自らの目と手で人体の構造を詳細に観察し、それによって人体の複雑さと精巧さを学習し、また、内臓や血管・神経などの構造が一人一人違うということを理解する。さらに重要なことは、医学教育のためにご献体いただいたご遺体に接して解剖させていただくことにより、全ての学生が、ご献体いただいた方の尊いご遺志に深く感謝し、立派な医療人になる覚悟を新たにすることであり、ご遺体こそが全てに勝る先生である。」と述べられました。

続いて、学生代表の大胡滴君が、「私たちはご献体下さいました皆様から生命の尊さ、そして将来医師になる者としての覚悟を学びました。解剖学実習がいか

に尊い故人のお気持ちによって支えられているものであるかを改めて感じました。将来の医学・医療の発展のために、ご自身のお身体をご献体される故人の崇高なご遺志を、私たちは生涯をかけて受け止め、教わったこと全てを医療人として社会に還元していかなければなりません。」とご霊前に誓い、故人のご冥福をお祈りしました。

法要に引き続き、故人（献体者）に対する文部科学大臣の感謝状を学長からご遺族代表にお渡しし、併せて、学生の手によりご遺骨をお返ししました。

また、午後からは比叡山横川の大学霊安墓地において、ご遺族、ご来賓、学生等の参列の下に、納骨式が執り行われ、分骨いただいたご遺骨が納骨堂に安置されました。

当日は好天に恵まれ、たくさんのご遺族が大学の霊安墓地を訪れられ、青空の下鮮やかに咲いたしゃくなげの花を眺めながら、故人を偲んでいらっしゃいました。



生協からの
お知らせ
News from
COOP

滋賀医大生協は創立15周年です

2003年から福利棟で営業を開始した生協は、創立から15年が経ちました。

今年度は「創立15周年企画」として、毎月15日（土日祝の場合は翌営業日・学休期間は除く）に「15」に掛けたセール企画などを実施しています。また、毎月の企画の募集もしています。



滋賀医大生協設立の経緯

2002年度（生協設立にむけての取り組み）

- * 9月、吉川学長（当時）と湖医会副会長（当時） 埜田先生が生協設立について話し合い。教授会において、吉川学長より学生食堂の運営を生協に委託することを検討する旨の報告。
- * 10月、若鮎祭において滋賀医科大学有志により生協を知らせる活動。生協設立準備会。
- * 11月に設立発起人会、2003年1月に創立総会を実施。

2003年度（生協創立初年度）

- * 4月から、食堂、購買、書籍の3店舗オープン。
- * 5月に初めての生協祭。
- * 秋より食堂で夕食営業開始。



2002年 設立運動



2003年 創立総会



2003年 生協祭

近年の主な取り組み

2011年度

- * 東日本大震災が発生。募金、陸前高田高校へ辞書を送る活動など取組んだ。

2013年度

- * 1月～3月に耐震改修工事を実施。食堂閉店の代わりに「弁当販売所」の設置を行い、購買は仮設店舗（ミニ購買）で臨時営業を行った。
- * 生協店舗は全て1階に集中させ、2階は各クラブの部室と学生ラウンジとなり「学生の皆さんが集う場所」となった。



2011年 東日本大震災
辞書の寄付活動

2014年度

- * 耐震工事後のリニューアルオープン。新しく出来たイベントスペースを活用した和菓子の販売や、教習所の相談会などの開始。

2015年度

- * 夏にICカード導入にあたってのアンケートを実施し、2016年1月にICカード組合員証を導入し、レジで電子マネーによる決済を開始。

2016年度

- * 熊本・大分地震が発生。おにぎり販売の一部を募金とする支援活動を実施。
- * 「リレー・フォー・ライフ・ジャパン滋賀医科大学」が初めて滋賀医大で開催され、生協として協賛メニューの実施や当日の営業など全面協力を行い支援。

- * 「新入生のための入学準備相談会」を初開催し、70名の新入生が参加。

2017年度（15年目）

- * 同窓会「湖医会」との共催企画で「前期試験ガンバレ！ 納涼企画」を実施。年末の「餅つき」も共催企画として実施。

滋賀医大生協は創立15周年

15周年企画を募集します

★今年度は滋賀医大生協15周年です。
そこで「15」にちなみに企画案をお寄せください。
採用の方にはプレゼントをご用意しています！！

★実施は7/17・10/15・11/15・12/17・1/15です

★プレゼント内容：下記より一つお選び下さい

A「うまい棒 150本」
B「COOP100円探菓子 15個」
C「大学生協オリジナルペット服料（G-5&A&B&Cシリーズ）15本」

<記入欄> ご応募お待ちしています♡

企画名：
内 容：

所属： 学生（ 学科 学年 ） ・その他（ ）
お名前：
連絡先 tel：
mail： @

プレゼント希望： A ・ B ・ C

★6月までの企画（参考）
4月企画 4/16（月）生協おにぎり15円引き
5月企画 5/15（水）書籍15%OFF（洋書は除く）
6月企画 6/15（金）150円カレー（150杯限定）&ICカードポイント15円

★採用は生協理事会で、決定。採用者にはご連絡いたします。

15周年企画案募集中!!
投票は福利棟1FのBOXまで

図書館からの
お知らせ
News from
the library

新入生歓迎企画



本学教職員が薦めるこの本 2018

図書館では、良き医療人を目指し、これから本学で学ばれる新入学生の皆さんのために、5名の先生方から図書のご推薦とコメントをいただき紹介する「本学教職員が薦めるこの本 2018」を開催しました。(期間：2018年4月3日～5月18日)

本展では図書とともにコメントを展示しましたが、今回はダイジェスト編としてコメントを紹介します。

展示した図書はすべて図書館で所蔵しており、貸出も可能です。ぜひ実物に触れて各図書の世界を味わってください。

では、どうぞお楽しみください。



医療文化学講座
(文化人類学)

兼重 努 先生



医師臨床
教育センター

小牧 史明 先生



ボディ・サイレント：
病いと障害の人類学

ロバート・F・マーフィー
(369//27//MUR 1F 一般書架)

米国の文化人類学者ロバート・F・マーフィーは48歳の時に脊椎の病いを発症する。病いは十数年かけてじわじわと進行し、身体の一部の痙攣から対麻痺をへて四肢麻痺に至る。「身体障がいとは社会的な病いである」という提言のもと、自身の身障者体験を異文化体験と捉え、詳細に記録したのが本書だ。身障者体験は、その人が属する社会や文化のありかたと密に関係する。本書のこの視点は、身障者の心情理解において極めて示唆に富む。



99%の人がしていない
たった1%の仕事のコツ
99%の人がしていない
たった1%のリーダーのコツ

河野 英太郎
(366//3//Kon 1F 一般書架)

意外と思われるかもしれませんが、実は医師という職業にはリーダーシップがとても重要です。学生の皆さんには、まだ仕事に対するイメージを想像できないでしょう。これらの本には、社会人1年目の心得やお作法が非常にわかりやすく書かれています。

これからの大学での実習、討論形式の授業、病院実習、そして医師免許取得後の初期研修、専門医研修と皆さんは長期間学び続けなければなりません。ごくあたりまえのことが書かれている本書を参考にしていただき、滋賀医大生の99%ができるコツにさせていただけたらと思います。

斜め屋敷の犯罪

島田 荘司

(913//6//Shi 1F 一般書架)

絶対誰も気づかないスケールの大きな(バカバカしい?)トリックが最後に種明かしされた時、そのためだけにこんな設定の屋敷にしたのか!と衝撃を受けた本格(?)推理小説です。島田作品におなじみの御手洗潔の変人ぶりが突き抜けていて、結構笑えます。代表作である占星術殺人事件とは全くテイストが異なり、個人的にはこちらの方が好きです。登場人物の中に医大生も出てきます。

医師臨床
教育センター

川崎 拓 先生



その幸運は偶然ではないんです!: 夢の仕事をつかむ心の練習問題

J.D. クランボルツ, A.S. レヴィン

(159//4//Luc 1F 一般書架)

キャリア形成において、将来やりたいことが見つからず焦っている人に対してお勧めします。著者が提唱する「計画された偶発性理論」では、「キャリアの8割が予期しない出来事や偶然の出会いによって決定される」としています。しかし予期しない出来事と偶然の出会いをただ待つだけではだめで、失敗を恐れず自ら積極的に行動することの重要性を説いています。人生どこでどうなるかわかりません。勉強しながら、働きながら、焦らずにやりたいことを見つけていけばいいんです。

臨床看護学講座
(精神)

河村奈美子 先生



ことばと身体: 「言語の手前」の人類学

菅原 和孝

(389////Sug 1F 一般書架)

「感情の猿=人」に続く本です。文化人類学者である著者が取り組んできた少数民族のフィールドワークや、霊長類のコミュニケーションなどからの徹底的なミクロの観察を通して身体に根差しているコミュニケーションとは?を解き明かし「唯身論」を提案しています。さりげない会話の中の力動や意味、のとらえ方について丁寧に示されており、未知の文化にある世界をワクワクしながら読めると同時に、事象のとらえ方、描き方、とらえ方とその限界についても学ぶことの出来る本です。医療者にとって大切な「観る力」が養われる本であると思います。

看護: 生きられる世界の実践知(フロネーシス)

池川 清子

(WY//100//IKE 2F 集密書架)

この本は、私の大学1年生の時の看護学原論の教科書です。そして、今まで何度もふとした時に読み返し、その度に少しずつわかる部分が増えていく、いつまでもわかりきれない看護哲学の本です。学生の時授業が終わる毎に、「看護のテクナーってなに?」「んー…、テクナーはテクナーなんじゃない?」「……そうだね」、という会話を友人と何度も交わしていました。看護を学ぶ人生に大きな宿題をもらった感じになる本です。看護のthe bookです。

白夜

ドストエフスキー

(983////Dos 1F 一般書架)

きれいな白夜の川のほとりで始まる青年の淡い恋愛のお話です。しかし、そこから徐々に恋愛とともに人間のこころの奥底にある打算や感情の絡まる本性についても繊細に描かれています。きれいな情景に浸るとともに、どろどろした人間の感情についても直視することになり、人間ってどういう生き物なのか?そのすさまじさとそれをうまく描いている著者に感動しました。



臨床教育講座

辻 喜久 先生



レナードの朝

映画化もされましたが、可能であれば、ぜひ、原作を読んでいただきたいです。本書との出逢いにより、R大学国際関係学部の学生であった私が、医師を志すこととなりました（親には迷惑を掛けました）。当時、哲学や文学にある種の言葉遊びのような虚しさを感じていたのですが、本書における患者さんと医師のやり取りは、非常に刺激的で、美しく、残酷で、“哲学”が生きていると思いました。この医療の世界の中で自分もいろいろなことを感じ、哲学や文学を見直してみたいと思い、再受験しました。

オリヴァー・サックス

(WL//351//Sac 2F 専門書架)

前半部分はL-Dopa（薬品）の開発の話なので難しく感じた方は、それを飛ばしていただいてもよいかもしれません。後半部分で、神経内科医である作者が、自身の経験を下敷きに患者さんにとっての“生きる”ということとはなにか、困難にあっても、それでもなお立ち向かう医師の姿勢、などが示されています。この姿勢に、A. カミュの「シーシュポスの神話」を思い出される向きもおられるかもしれません。

映画版もお勧めです。故ロビン・ウィリアムスとデニーロの演技が光ります。

しろばんば・夏草冬濤・北の海

井上 靖

(913//6//Ino 1F 一般書架)

井上靖の青春三部作です。自伝的小説であり、少年期から青年期へと進む過程で、青臭い、純粹で不器用な学生が描かれています。学生特有の純粹さが、自身を結晶化し、不器用に傷つきながらも成長していきます。高校時代に読みながら、“青春の熱さ”を感じたことをいまでも覚えています。

以下、作者が高校時代（本書の背景）を振り返って述べています。一部の教科書にも取り上げられていたので、知っている人もいるかもしれません。

一哲学の言葉と言うと、柔道に明け暮れた高校生活を終わって、大学へ進む頃、“天上の星の輝きと、わが心の内なる道徳律”というカントの言葉を友達から教わった。---ああ、いかに感嘆しても感嘆しきれぬものは、天上の星の輝きと、わが心の内なる道徳律、こうカントは言っている。(略)夜毎、空には神秘的な星の光が輝き、地上には正しく生きることを考え、悩みながら人間が生きている！ 甚だ自分流の文学的解釈であり、受取り方であったが、私にはこれで充分であったのである。私は若い日自分の感傷を揺すぶったたくさんの言葉の中で、やはりこの言葉が一番大きく、重いものではなかったかと思う。出会わないより出会ってよかったと思う—

井上靖「わが一期一会」より人生について「天上の星の輝き」

星々の悲しみ

宮本 輝

(913//6//Miy 1F 一般書架)

R大学を辞めたあと、劇団員時代に出会った本です。色々なことが上手くいかず、あるいは、上手くいってもこれでよかったのかともじもじと悩んでいたころに出会った本です。どういうわけか、この本を読むと、The Boomというバンドの「星のラブレター」という曲を思い出します。当時、よく聴いていたのかもしれませんが。

大学受験に失敗した少年の日々を描いているということもあり、浪人時代の気持ちを思い出させてくれます。この小説の舞台になった喫茶；じゃこうは当時はまだ大阪で営業していて、仲間たちといつか行こう！と盛り上がった記憶があります。結局行っていないところもまた、懐かしい思い出です。学生時代にはいろいろなことがあると思いますが、こうしたことで一緒に盛り上げられるような、そんな友人を持ってほしいと思います。

今でも初心に帰りたくなったら読むことがあります。少し取っつきやすいような気分になりますが（笑）、文体はさすがの宮本輝で口当たりはさわやかですが、静かにしめるような短編です。



Black Jack

手塚 治虫

(726//1//Tez 1F 一般書架)

泣く子も黙る手塚先生の名著、ブラックジャックから。「人間が生きものの生き死にを自由にしようなんて、おこがましいとは思わなかね」のセリフは有名ですね（実は、このセリフは、「本間血腫」のエピソード以外でも使われていますが、ここでは触れない）。

医療の進歩は著しく、例えば心臓が止まっても、人工心肺を使えば生きていくようなデータが示されます。私自身の話ですが、つい最近まで、私は、とある大病院で重症急性膵炎という病気を専門に非常にタフな毎日を送っていました。治療は上手くいくときもあればそうでないときもあり、なぜこの人が助かり、あの人が助からなかったのか、自問自答する毎日でした。ある時、普通では助からないといわれた患者さんを助けることができました。よく助けられたなど、神の手といわれる先生に褒められ、うれしかったことを覚えています。1年後、その患者さんは後遺障害に苦しみ、亡くなりました。自殺とのことでした。私たちが向かい合う“命”とは何なのでしょう？ 私はこの患者さんを本当に助けたのでしょうか？ 今でもこの言葉を思い出しながら、考え込むことがあります。

竜馬がゆく

司馬 遼太郎

(913//6//Shi 1F 一般書架)

青春小説の王様のような本です。武田鉄矢をはじめ、多くの人の人生を狂わせたといってもよいかもしれません（笑）。この本については、なにも言わなくてもよいでしょう。若干の史実と異なる部分があるようですが、それを合わせても魅力的な小説です。

私が高校3年生の時に、当時の家庭教師の先生が、駿台の青本（今でもある？）の京大のところに受験体験記を書かれました。年も近い人で、兄貴のような感じで大変かわいがってもらったのですが、記念にその本をくれました。せっかくなので、「サインしてよ」と頼んだら、この「竜馬がゆく」から、「とらわれた人間は愚物でしかない」という言葉を引用されました。その後の私の人生の時々はこの言葉を思い出すことがあり、私の財産の言葉の一つと言えます。

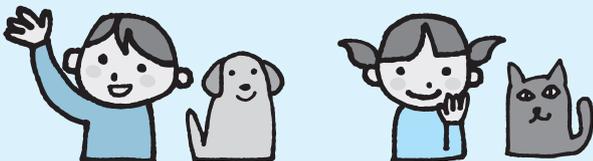


本企画のポスターは学生の方に
作成していただきました！
素敵なポスターを
ありがとうございました!!



おわりに

ご協力いただいた先生方、
本展をご覧いただきました皆様、
ありがとうございました。



本学教職員が
薦めるこの本

2018

新入生歓迎三展示

@滋賀医科大学附属図書館



展示ポスター

JCHO
滋賀病院だより
News from JCHO
Shiga Hospital



JCHO 滋賀病院 健康管理センターの紹介



独立行政法人 地域医療機能推進機構（JCHO）滋賀病院 院長

来見 良誠

（滋賀医科大学医学部医学科1期生・昭和56年卒）

JCHO 滋賀病院は天津市にあり、地域医療における役割は急性期診療のみならず、近隣の医療機関が保有しない機能を補完する医療機関であることが期待されています。急性期診療については、これまでも各診療科から紹介させていただいていますので、本稿では補完すべき機能の一つである予防医療の分野についてご紹介いたします。

JCHO 滋賀病院健康管理センターは、昭和61年（1986年）に開設されました。院内健診・巡回バス健診を合わせ、年間に約35,000件の健康診断を実施しています。

公的医療機関では、県内最大規模の実績をもっています。人間ドック、企業の生活習慣病予防健診、定期健診、天津市のがん検診に加え、オプション検査では脳ドック、肺ドックも行っています。

人間ドックでは、希望者には当日結果説明を実施しています。滋賀病院本院との医療連携を整え、健診で異常が発見された方には、よりスムーズな二次精密検査、専門家受診ができるよう努めています。日常生活では、まだまだ健康でほとんど異常を感じていない人でも、年齢とともに体の中には生活習慣病の原因となる歪を少しずつためているものです。生活習慣病を予防するためには、まずは年に一度定期的に健康状態をチェックすることが大切です。JCHO 滋賀病院健康管理センターでは、平成28年度には、悪性疾患45例を検出しています。その内訳は、食道がん（1例）、胃がん（7例）、大腸がん（12例）、胆嚢がん（2例）、肺がん（12例）、前立腺がん（3例）、腎がん（1例）、乳がん（7例）となっていました。検出率が0.1%であっても、母数が35,000の場合には、45例もの“がん”が発見されることとなります。

さて皆さんは、健診と検診の違いをご存知でしょうか？「“にんべん”の健診」、「“きへん”の検診」として区別しています。特定の疾患に絞り込んでする「検



健康管理センター 受付



健康管理センター 採血待合



健康管理センター 診察待合

診」は、肺がん検診・胃がん検診・乳がん検診などがそれに当たります。一方「健診」は健康状態を把握するためのもので、広い範囲の検査を行います。発病しないように予防することを主目的とした「健診」と特定の疾患を早期に発見する「検診」を組み合わせることによって、健康の維持増進を啓発することが当センターの使命であり、保健師による保健指導もその一環として実施しています。

大学病院では、健診を行っていないため、医学生はほとんど健診・検診のことを十分認識していない可能性があります。JCHO滋賀病院の臨床実習では、健康管理センターの業務や検診の流れを学習することになっています。

巡回健診は、特殊機能を有する大型バスを5台保有し、そのうち2台が毎日稼働し、滋賀県内すべての企業を対象に、企業健診を行っています。巡回バスには、医師1名・看護師1名・検査技師1名・放射線技師1名・事務1名の5名が同乗し、健診を実施しています。毎朝7時にJCHO滋賀病院を出発し、滋賀県の7つの保健医療圏（①大津保健医療圏、②湖西保健医療圏、③湖北保健医療圏、④湖東保健医療圏、⑤東近江保健医療圏、⑥甲賀保健医療圏、⑦湖南保健医療圏）すべ

てを担当しています。

当健康管理センターの歴史は古く、20年を超える受検者も沢山いるようです。時系列で検査を評価できる点が、JCHO滋賀病院健康管理センターの特徴の一つになっています。

胸部X線検査・マンモグラフィー・心電図・胃透視の読影には健診担当医師のほかに、診療担当医師も協力し、迅速かつ精度の高い検査所見を担保しています。

地域医療教育研究活動拠点となって3年目に入り、拠点の教員は、梅田朋子准教授（乳腺外科）・内藤弘之准教授（消化器外科）・中島滋美准教授（総合診療科）・中島亮講師（整形外科）の4名になりました。

1年間を通じて常に5名以上学生がいる環境は、病院全体を活性化し、勤務する医師に教えることの面白さを呼び起こすとともに、知識の整理を促すなど想定外の効果を生み出すことができました。これからは地域医療の教育研究拠点として、①大学病院と地域の医療施設、②自己完結型医療施設と機能補完型医療施設、③遠隔地型地域医療と都市近郊型地域医療、④専門診療と総合診療、⑤急性期医療と回復期医療、⑥先進医療と通常診療、などに着目しながら更に充実させていきたいと思っています。



健診バス 車庫風景



健診バス 側面

インフォメーション

Information

平成29年度 卒業式



告 辞

学 長 塩田 浩平

厳しかった冬が終わり、春を待ちかねたように木々の花が咲き始めています。本日ここに、ご来賓各位並びに本学教職員のご臨席を賜り、平成29年度滋賀医科大学卒業式を挙行できますことは、本学にとって大きな喜びであります。

医学科を卒業される108名、看護学科を卒業される56名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、これまで学生の皆さんを支え励ましてこられたご家族の皆様にも、心からお慶びを申し上げます。

卒業生の方々は、6年間または4年間の学生生活を終え、ここに学士を得て卒業されるわけですが、皆さんは今、これから医療や看護の現場で始まる新しい生活への期待と緊張感を感じておられることと思います。これから医療、看護、保健など、臨床の第一線で、病む人を助け病気を治療するために、あるいは人々の健康を維持増進するために、これまでの学業の成果を活かして存分に活躍してください。

滋賀医科大学は創立から今年で44年目となり、6年後に50周年を迎えます。本学はこれまでに5千人を超える卒業生を輩出し、卒業生は滋賀県をはじめ全国の医療機関、大学、行政機関などで活躍し、海外で活動している方もあります。卒業生のうち約三分の一が滋賀県内で医療に従事し、地域医療を中心となって支えています。昨年末に発表された全国都道府県別の平均寿命の統計で、男性は滋賀県がトップ、女性は全国で第4位となりました。滋賀県の恵まれた自然環境や住民自身の努力があるのは勿論ですが、地域で献身的に活動する滋賀医科大学の卒業生、そして高度医療を担う県内唯一の医学部である滋賀医科大学の貢献も大きいと我々は誇りに思っています。

いま、社会も医療を取り巻く環境も大きく変化して

います。少子高齢化が進行し、医療制度、社会保障制度も様々な課題を抱えています。医師・看護師の偏在もわが国の深刻な問題であります。

医師については、新専門医制度がよいよこの4月からスタートします。これは、日本専門医機構が行う新しい制度で、専門医は「それぞれの診療領域における適切な教育を受け、患者から信頼される標準的な医療を提供できる医師」と規定されています。皆さんの多くが2年後に専門医の取得を目指して専門研修を受けられると思いますが、滋賀県においては滋賀医科大学が中心となって専門研修プログラムを実施することになります。充実した初期研修、専門研修を受け、実力を備えた信頼される医師になってください。

一方、看護や保健の分野においても改革が進み、看護師や保健師の活動の場が広がってきています。その一つが看護師の「特定行為」であります。これは、「実践的な理解力、思考力及び判断力と高度かつ専門的な知識及び技能」が必要とされる38の医療行為について、資格を持つ看護師が医師の指示を待たずに行うことができるものです。本学も「特定行為研修機関」として研修コースを開講しており、それを修了された方々が各地で住民のために働いています。

また、高齢者の増加と医療機関の機能分化の方向を受け、在宅看護が重要性を増しています。本学では平成27年度から看護学科に「訪問看護師コース」を設け、看護学科と附属病院看護部の協働による卒前卒後の一貫した教育プログラムを進めています。

このように、医師・看護師等の役割が今後ますます広く深くなっていきます。皆さんは、常に時代の要請に対応しつつ自己研鑽を続け、指導的な医療人としてそれぞれの立場で活躍していただきたいと思います。

医療も看護もどんどん高度化、細分化し、プロフェッショナルとして身につけるべき知識や情報が指数関数的に増えています。また、診断法が格段に進歩して病気の早期発見や微細な病変の診断が可能になり、画期的な新薬によってこれまで不治であった病気が治る

ようになっています。臨床医学が先端科学や膨大なデータに支えられており、必要な検査とそのデータの分析によって、臨床医は正しい診断に到達し、最適の治療法を見つけることができます。しかし、医師が臨床データに過度に依存するあまり、臨床の現場ではしばしば、患者が人間としてではなく情報の集合体と見なされているという批判があります。スタンフォード大学のAbraham Verghese教授は、そのように扱われる患者のことを“iPatient”と呼んで、医療の現状を皮肉っています。Verghese教授は一人の女性患者について述べています。彼女は乳がんが見つかり、テキサスのがんセンターへ紹介されました。しかし、しばらく経つと彼女は再び地方の小さい病院へ戻っていたのです。Verghese教授が不思議に思って尋ねると彼女はこう答えたそうです。「がんセンターは素晴らしい施設でした。最新の画像診断や遺伝子診断を受けることができました。でも、入院中誰も私の胸に触れて診察しようとしてくれなかったのです。」Verghese教授は、医学が進歩した今の時代にあっても、医師と患者の間に信頼関係が成立するために必要なのは、医師が患者の話をじっくり聞くこと、そして医師が自らの手で患者の体に触れることだ、と述べています^(注1)。

皆さんは、医師や看護師として働くとき、常に「患者に寄り添う」ということを忘れないでください。これは簡単なようで難しく、忙しい業務の中ではかなりの自己犠牲を伴うものです。しかし、様々な悩みを持つ患者にとっては、医師や看護師の一言、ちょっとした思いやりのある行為が大きな救いになり、それによって医療スタッフに対する信頼感が生まれることになるのです。

皆さんは、今日、クラスメートと共に滋賀医科大学を卒業されますが、今後医療に関わる仕事をするとき、同級生は生涯にわたって重要なパートナーであり相談相手になります。この滋賀医科大学で共に学んだ

仲間との絆を卒業後も大切にし、お互いに助け合い、また切磋琢磨していただきたいと思います。また、皆さんは滋賀医科大学同窓会「湖医会」の会員であります。ぜひ、母校滋賀医科大学および同窓会とのつながりを大切にしてください。

卒業生などを支援する活動の一つとして、本学が実施している「女性医師支援のためのスキルズアッププログラム」をご紹介します。全国的に女性医師の数が増えていますが、そのうち一部の方が出産や育児を機に臨床の現場を離れます。そのようにしていったん離職した女性医師が医療現場へ復帰するときに不安を覚える方が少なくありませんが、本学では、離職した女性医師が速やかに臨床現場へ復帰するのを支援するため、「女性医師支援のためのスキルズアッププログラム」を昨年より実施しています。本プログラムは、一旦離職した女性医師を本学附属病院の診療登録医として採用し、臨床の知識や技能の学び直しを行っていただくものです。このスキルズアッププログラムは全国から注目され、受講希望者が増えており、すでに臨床現場へ復帰した医師も出ています。皆さんも、将来キャリアパスで悩むようなことがあった時には、是非母校である本学に相談してください。滋賀医科大学と「湖医会」は、いつまでも卒業生の皆さんを応援いたします。

本日卒業される皆さん一人一人がこれから充実した人生を送り、それぞれの立場で社会に貢献されることを心から期待して、私のお祝いの言葉といたします。本日は誠にありがとうございます。

平成30年3月9日

(注1) “A doctor’s touch”, TED Global 2011 より
https://www.ted.com/talks/abraham_verghese_a-doctors_touch/up-next?language=ja



平成29年度 医学部 卒業式

日時：平成30年3月9日（金）

場所：滋賀医科大学 体育館

医学科卒業生 108名



看護学科卒業生 56名



平成29年度 大学院 学位授与式

日時：平成30年3月9日（金）

場所：滋賀医科大学 大会議室

大学院博士（医学）17名、論文博士（医学）3名、大学院修士（看護学）10名



平成29年度 各賞授与式

日時：平成30年3月9日（金）
場所：滋賀医科大学 大会議室



学長賞

博士課程 大橋 夏子
修士課程 東 さおり

優れた学位論文に対して表彰

第34回滋賀医科大学シンポジウム各賞

若鮎賞 動物生命科学研究センター
奨励賞 医学部医学科第4学年
審査員特別賞 薬理学講座
血液内科
大学院医学系研究科博士課程
(リーディングプログラム)
薬剤部
病理学講座

第34回滋賀医科大学シンポジウムにて決定

築山 智之
吉岡 賢吾
大野 美紀子
河原 真大

Aryandhito Widhi Nugroho
辻 徳治
鈴木 紗織

ベストティーチャー賞

生命科学講座（生物学） 平田 多佳子
小児科 澤井 俊宏

学部教育に顕著な成果をあげた教員に対して表彰

生理学講座（細胞機能生理学） 尾松 万里子
基礎看護学講座（基礎） 中西 京子

女性研究者賞

地域医療教育研究拠点 梅田 朋子

女性研究者の優秀な研究活動に対して表彰

Doctor of the Year, 2017

医師臨床教育センター 森 和徳

患者さん等から高い評価を得た研修医に対して表彰

（所属は受賞当時のものを記載）

医師・保健師・助産師・看護師 国家試験の結果

● 平成30年3月19日(月) 午後2時発表 ●

第112回 医師国家試験

平成30年2月10日(土)・11日(日)実施

	受験者	合格者	合格率	備考
新卒者	108名	103名	95.4%	合格率(全国) 90.1%
既卒者	19名	15名	79.0%	
計	127名	118名	92.9%	

参考 前回 第111回 医師国家試験の結果

	受験者	合格者	合格率	備考
新卒者	119名	102名	85.7%	合格率(全国) 88.7%
既卒者	9名	7名	77.8%	
計	128名	109名	85.2%	

● 平成30年3月26日(月) 午後2時発表 ●

第104回 保健師国家試験

平成30年2月16日(金)実施

	受験者	合格者	合格率	備考
新卒者	28名	27名	96.4%	合格率(全国) 81.4%
既卒者	0名	0名	—	
計	28名	27名	96.4%	

参考 前回 第103回 保健師国家試験

	受験者	合格者	合格率	備考
新卒者	30名	29名	96.7%	合格率(全国) 90.8%
既卒者	0名	0名	—	
計	30名	29名	96.7%	

第101回 助産師国家試験

平成30年2月15日(木)実施

	受験者	合格者	合格率	備考
新卒者	7名	7名	100.0%	合格率(全国) 98.7%
既卒者	0名	0名	—	
計	7名	7名	100.0%	

参考 前回 第100回 助産師国家試験

	受験者	合格者	合格率	備考
新卒者	9名	9名	100.0%	合格率(全国) 93.0%
既卒者	0名	0名	—	
計	9名	9名	100.0%	

第107回 看護師国家試験

平成30年2月18日(日)実施

	受験者	合格者	合格率	備考
新卒者	53名	53名	100.0%	合格率(全国) 91.0%
既卒者	2名	2名	100.0%	
計	55名	55名	100.0%	

(注) 新卒者中3名は3年次編入学者で、既に合格済み。

参考 前回 第106回 看護師国家試験

	受験者	合格者	合格率	備考
新卒者	60名	57名	95.0%	合格率(全国) 88.5%
既卒者	1名	0名	0.0%	
計	61名	57名	93.4%	

❖ 研究医コースのご案内 ❖

研究は案外身近で、おもしろい

■ ちょっとでも興味があれば、入門研究医コースに参加してみよう！

入門研究医コースは、基礎医学研究がどのようなものか情報を提供し、研究への興味を育てようとするもので、基本的に入出入り自由です。

第1学年で「基礎医学研究入門」を履修すると、自動的に入門研究医になりますし、講義を選択しなくてもコースに入れます。第1学年前期に数回行われるラボツアーに参加すれば、研究室の雰囲気がわかりますし、第1学年後期の必修授業（医学特論・医学・生命科学入門）では、講座で行われている詳細な研究内容を知ることができます。

複数の研究室をローテートすることも可能で、研究室の様々な活動に参加しながら、研究の基盤となる知識の習得や、研究の動向の理解に重点を置いた指導を受けられます。



■ 本格的に取り組むなら、登録研究医コースへ！



自分のやりたいことが定まってきたら、登録研究医にステップアップしましょう。第1～5学年のいずれの時点でも登録可能で、年に数回面接による資格確認が行われます。

興味のある研究領域に応じて分子医科学・病理学・法医学・公衆衛生学の各専攻を選択し、自分の研究テーマをもって実際に研究活動に参加することになります。アドバイザーとして指名された基礎医学講座やセンターなどの教授・准教授と、本事業専任の特任助教とが、研究テーマの選び方から、実際の実験手技まで一から相談に乗ります。それぞれの講座のスタッフによる実験指導も受けられますので、効率的に研究を進めることができます。希望に応じて、複

数の講座をローテートしたり、連携大学である浜松医科大学や三重大学に出向いて、幅広い研究手法を身につけることも可能です。

登録研究医コースの期間は、学会や研究会への参加経費の補助も受けることができます。また、大学院の講義の一部を聴講することができ、大学院進学後には取得単位として認定されます。

詳しくは、研究医養成コースのホームページへ (<http://www.shiga-med.ac.jp/kenkyui/>)

勢多は勢田、世多、瀬田とも書かれるが、古代、中世の文献では、勢多が多用されている。それに勢多は「勢（いきおい）が多い」という佳字名称である。従って、いきおいが多かれと願う本学関係者の想いにぴったりということで、瀬田とせずに、あえて勢多とした。

（題字は、故 脇坂行一初代学長による）

2018年7月

理念

滋賀医科大学は、地域の特徴を生かしつつ、特色ある医学・看護学の教育・研究により、信頼される医療人を育成すること、さらに、世界に情報を発信する研究者を養成することにより、人類の健康、医療、福祉の向上と発展に貢献する。

目的と使命

[滋賀医科大学]

滋賀医科大学は、地域の特徴を生かしつつ、特色ある教育・研究により、信頼される医療人の育成及び世界に情報を発信する研究者を養成することを目的とし、もって人類の健康、医療、福祉の向上と発展に貢献することを使命とする。

（国立大学法人滋賀医科大学 学則第1条を一部修正）

[滋賀医科大学大学院]

大学院は、医学及び看護学の領域において、優れた研究者及び高度な知識と技術をもつ専門家を養成することを目的とし、もって、医学及び看護学の進歩と社会福祉の向上に寄与することを使命とする。

（国立大学法人滋賀医科大学 大学院学則第2条より抜粋）

教育理念

豊かな教養と高い専門的知識及び技能を授けるとともに、確固たる倫理観を備え、科学的探究心を有する医療人及び研究者を養成する。

教育目標

- 1) 課題探求、問題解決型学習を通して、適切な判断力と考察する能力を養う。
- 2) 豊かな教養を身につけ、医療人としての高い倫理観を養う。
- 3) コミュニケーション能力を持ち、チーム医療を実践する協調性を培う。
- 4) 参加型臨床（地）実習を通して、基本的な臨床能力を習得する。
- 5) 国際交流に参加しうる幅広い視野と能力を身につける。



SHIGA UNIVERSITY
OF MEDICAL SCIENCE

学章の説明

「さざ波の滋養」のさざ波と「一隅を照らす」光の波動とを組み合わせたもの。

「中心に向かって、外からさざ波の波動-これは人々の医への期待である。外に向かって中心から一隅を照らす光の波動-これは人々の期待に返す答えである。」